

事故調の最終報告で指摘された

注意力が薄れる、走行中の 「運転通告」(無線交信)は中止せよ!

6月28日、国土交通省航空・鉄道事故調査委員会が公表した、JR福知山線脱線・転覆事故に関する最終報告書の中で、運転士のブレーキ使用が遅れた原因について、「車掌と輸送指令員の交信内容をメモしようとして遅れた可能性もある」と解析しています。また、「交信に特段の注意を払い、運転士の注意が運転から離れた」ことを原因にあげています。さらに、「交信のメモを取ることは禁止すべき」としています。

この間、JR東海労は、在来線で行われている走行中の無線による「運転通告」について、安全上問題があるので直ちに中止し、停車時に行うことを強く申し入れてきました。しかし、会社は「運転中であれば運転士に受領の可否を確認したうえでやっている。問題ない」と回答し、指令が一方向的に無線を入れてくるにもかかわらず、判断は運転士に委ねるというまったく無責任な対応をとっているのです。

JR東海労は、あらためて今回事故調査委員会が出した最終報告を厳粛に受け止め、直ちに走行中の無線による「運転通告」を中止することを求めます。

運転士に判断を
押しつけるな!